

## 住宅用火災警報器の奏功事例(令和5年から令和7年)

年 月	発生時間	概 要	焼損程度	設置経緯
令和5年1月	10時	家の中で焦げ臭いにおいを感じたが、特に気にせず居間でテレビを見ていると、階段に設置してあった住宅用火災警報器が鳴り出したので、確認したところ、和室にある仏壇付近から炎を発見した。バケツを使用し、風呂の残り湯をかけて初期消火を実施する。	部分焼け	不明
令和5年3月	2時	居住者が深夜2時頃トイレに行き、寝室に戻ると、ハロゲンヒーターと布団が燃えていた。1人で消火活動をしていたが、敷地内の隣接した住宅に住む長男夫婦が、住宅用火災警報器の鳴動音を聞き、火元建物にかけつけ、消火活動を実施し、消火したものの。	ぼや	不明
令和5年5月	9時	居住者が仏間で落下させたらうそくをそのままにして居間でテレビを見ていたところ、仏間の隣に位置する寝室に設置された住宅用火災警報器が鳴動。それにより火災に気付いた居住者が初期消火を実施し、火災の拡大を防いだ。	ぼや	不明
令和6年1月	18時	住宅用火災警報器が鳴動したことにより火災を発見、初期消火を実施。水バケツで燃えている物をバケツで3杯ほどかけたが、火が風呂焚き場の屋根まで燃え上がったため1人では消火することができないと思い119番通報したものの。	ぼや	不明
令和6年4月	8時	居住者が自宅台所設置のガステーブルグリル内で食パンを焼いている最中にその場を離れていたところ、住宅用火災警報器が鳴動した。鳴動と煙に気付いた隣人が119番通報する。	焼損なし	設置済み
令和6年4月	16時	住宅居住者が台所の電子レンジでパンを加熱し、他の用事をしていた。しばらく警報器の音が聞こえたため確認に行くと、煙が台所に充満していたもの。作動音を聞いた隣人により、119番通報されたもの。	焼損なし	設置済み
令和6年6月	5時	就寝中、警報音に気づき、台所を確認したところ火災は認められなかったが、奥の部屋を確認すると、ドアのガラス越しに作業場の火煙を確認したものの。	全焼	不明
令和6年6月	12時	住居人が飲酒し、鍋を火にかけてそのまま眠ってしまったため空焚きとなり煙が発生し、住宅用火災警報器が作動したものの。	焼損なし	不明
令和6年7月	17時	関係者がガスコンロで鍋に火をかけたまま、別室で作業をしており、鍋を空焚きしたことで室内に煙が充満し、住宅用火災警報器の警報音が鳴動し、発見する。	焼損なし	不明
令和6年8月	19時	隣室に居住している大学生が、住警器の警報音と煙の臭いに気付いたものである。近隣の住民が火災であることを確認し、通報を依頼された大学生が119番通報する。	部分焼	設置済み
令7年1月	17時	住居人が台所で調理後、別の部屋で夕食を取っていたところ、その部屋の住宅用火災警報器が作動したものの。	部分焼	不明

## 住宅用火災警報器の奏功事例(令和5年から令和7年)

年 月	発生時間	概 要	焼損程度	設置経緯
令7年2月	13時	家人の寝たばこによる火種が時間経過とともに有炎燃焼に至り、寝具類等に着火し出火したもの。家人が就寝中、住宅用火災警報器の鳴動により目が覚め、周囲に煙が揚がっていることに気付き、台所で鍋やボウルに水を入れて初期消火を実施し、その後119番通報したもの。	ぼや	不明
令7年2月	10時	家人が2階寝室で就寝中、住宅用火災警報器が鳴動したため、1階に下りたところ、台所のコンセントから火が出ているのを発見、水道水により消火したもの。	ぼや	点検及び交換未実施
令7年3月	5時	所有者が就寝中、異音及び臭気により目覚め、住警器が鳴動したため、廊下へ出ると煙が階段を上がってきていた。父の部屋を確認すると、室内で火煙を発見した。	全焼	不明
令7年3月	20時	共同住宅1階において、関係者が留守中、IHクッキングヒーター上で鍋が空だき状態となり、住宅用火災警報器が作動。警報音に気づいた上階の住人が119番通報したもの。	焼損なし	良好
令7年3月	17時	住居人が台所でカセットコンロに火をかけたまま外出し、居室の住宅用火災警報器が作動したもの。上階の住人が住宅用火災警報器の鳴動に気付き、119番通報したもの。	焼損なし	不明
令7年4月	19時	居住者が、19時頃から居室内で、カセットコンロを使用し食材を調理していたところ、居眠りをしてしまい、その間に食材が焦げて煙が室内に充満し、住警器が作動したもの。	焼損なし	各居室に設置
令7年5月	8時	居住者が就寝中、隣接する室に設置された住宅用火災警報器の警報音により目を覚ましたところ、床及び衣類が燃えていることを現認し、水道水で消火したもの。	ぼや	不明
令7年7月	17時	居住者が、電子レンジで冷凍パンを加熱し、その場を離れている際に、「ボン」という音とともに住宅用火災警報器(煙式)の鳴動音がしたため、電子レンジを確認すると、火は見えないが少量の白煙が出ていたことから、119番通報したものである。	焼損なし	交換時期等不明
令7年9月	15時	電動工具用バッテリーパックを充電するため充電器にセットし、その後、入浴していたところ、住宅用火災警報器が鳴動し、確認したところ、充電中の電動工具用バッテリーパックから火が上がっているのを発見し、浴槽内の残り湯を洗面器で汲んで、水をかけて消火したもの。	ぼや	点検、交換状況は不明
令7年10月	12時	マグネットタイプの長屋2階に住む入居者が、市内の河川敷でバーベキューを実施し、使った炭に水をかけた上で段ボールに入れて持ち帰り、玄関ポーチに置いていた。その後、寝室で過ごしていたところ警報音が聞こえ、階段室に行くと煙があり、玄関の扉を開けると段ボールが燃えていることに気付いたもの。	部分焼	新築時に設置

## 住宅用火災警報器の奏功事例(令和5年から令和7年)

年 月	発生時間	概 要	焼損程度	設置経緯
令7年11月	9時	家人が惣菜の天ぷらを温めるため、IHコンロ上に直接乗せて加熱した。その後、庭で作業していたところ、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき、IHコンロの電源を切ったため火災には至らなかったものである。	焼損なし	点検・交換未実施
令7年11月	22時	こんろに鍋をかけていることを忘れ外出した(ごみを搬出した後、下階の友人に会っていた)ため、鍋の内容物が焦げ付き住宅用火災警報器が鳴動。鳴動音に気付いた隣人が、施錠されていた玄関から部屋に入り、こんろ(過熱防止装置なし)のスイッチを切ったもの。	焼損なし	設置
令7年11月	2時	台所で食事中、住宅用火災警報器の音がしたため、音の鳴っている寝室のドアを開けると、コンセントからオレンジ色の火が15センチくらいあがっており、部屋の中は黒い煙が充満していたもの。	ぼや	設置時期不明
令7年11月	7時	住人が、就寝中に住宅用火災警報器の鳴動音に気づいて目を覚ましたところ、室内に煙が充満し石油ストーブから炎が出ていたため、布団で覆い火勢を抑え、水をかけて消火したもの。	ぼや	不動産管理会社が設置
令7年12月	17時	日頃から加工したペットボトルを灰皿として使用していたが、水を入れていなかった。たばこを吸った後、火を消さずにペットボトルの灰皿に捨てて外出した。通報者は、住宅用火災警報器の作動音が聞こえ煙が出ているのを確認し119番通報した。	ぼや	不明
令7年12月	17時	入居者は、喫煙後吸殻をビニール袋へ始末し外出した。約20分後、住宅用火災警報器の鳴動により、別住戸の居住者が火災に気づき、外出先から帰宅した家人に知らせたもの。	ぼや	点検未実施